

第六章 自然災害

第一節 概 況

本町は地勢が険しくて平地に乏しく大部分が山地であり、ほとんどの河川が流路は短くかつ急こう配のもが多いため、降雨時の出水は急激で被害を受けやすい。加えて台風銀座ともいわれる豊後水道に面しているので、長い海岸線は台風や豪雨により甚大な被害を受けている。

自然災害のうち台風による気象災害件数が最も多く、次いで豪雨、干ばつ、豪雪の順となっている。近年かんきつ類の栽培が盛んになると同時に、異常低温が自然災害の中に加えられるようになった。地震による被害は文献に現れたものでは特に大きいものはない。

第二節 台 風

台風被害は最も多く、愛媛県に災害を及ぼす台風の経路は主として西日本を通過したものである。しかし、西日本を通過した台風の全部が大災害を及ぼすというわけではない。

災害資料の豊富な昭和九年以降の県統計をみると、被害額はまれに起こる猛台風によるものが圧倒的に多い。まず死者についてみると、その半数は昭和一八年の七月台風、昭和二〇年の枕崎台風、昭和二四年のデラ台風などに

第1編 自然

よるものである。また全壊家屋のうち半数は、昭和一八年の七月台風、昭和二〇年の枕崎台風、昭和二六年のルース台風に起因するものである。この事実により、台風災害が気象災害のうちでもいかに大被害を及ぼしているかがよくわかる。

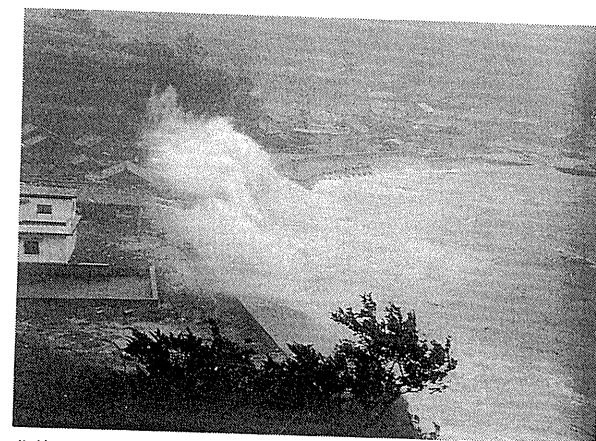
昭和二四年のデラ台風被害の惨状は、加周海岸でも国道一九七号線（当時の県道八幡浜―三崎線）は激浪により破損流失し、漁船・漁具等の大破した残がい山積みになっていた。また日振島漁民の遺体が多数漂着するなど、来襲した台風がいかに猛威を極めたかがよくうかがわれる。

第三節 豪雨

豪雨は台風に次ぐ発生件数を示し、本町災害中の第二位を占めている。

被害状況の資料が乏しいので詳細なことは考察しにくいだが、農業用公共施設、農業用固定資産、農作物等の被害が甚大であったようである。『町見郷土誌』に明治九年の大洪水による損害の一部が摘録されているが、これが本町で一番古い記録である。

町内で二級河川指定を受けているのは、伊方大川（兩岸平均流路長三・二キロメートル）、伊方新川（同一・八キロメートル）、九町新川（同一・四キロメートル）の三河川で流路は極めて短い。伊方大川水系をみても、幹流大川に流入する支流は極めて多く、集中豪雨時は急激な出水のため、堤防が決



豊後水道を北上した台風15号に襲われた大成海岸



豪雨による九町新川のはんらん



昭和33年、干害当時の新聞スクラップ

第6章 自然災害

壊し大被害が繰り返された。

このほかに藩政時代から公共管理されている慣行河川（現在県管理）が七八もある。そのうち地滑りと河川砂防の指定を受け、災害復旧や砂防工事をしたものに、小中浦、湊浦の寺川、川永田の大谷川、九町の新川があり、また地滑り対策工事施工地区には「大浜」、「中浦・小中浦」、「九町浦安」がある。

降雨量などについては第七節資料を参照されたい。

第1編 自然

第四節 干ばつ

前節に述べたように当地方の山地は保水力に乏しく、またかんがい施設もほとんどないので、夏季に晴天が長く続くと大きな被害を出すことがある。

近年、特に大きな被害をもたらした干ばつは昭和九年、昭和十三年、昭和四二年のものである。昭和九年の干ばつについては「六〇年来の干ばつ」といわれ、『伊方村日誌』によると農作物に甚大な被害があった。このときの干害対策について、西宇和郡町村会では次の一項目にわたる陳情書を国と県へ提出している。

- (1) 被害調査と救済助成金の交付
- (2) 干害地の地租および地租付加税などの減免
- (3) 干害地救済のための救農土木事業の実施
- (4) 政府米を干害地に特に安価払い下げ
- (5) 干害地救済および干害防止設備に特別低利資金を融通
- (6) 桑園整備補助金の増額と養蚕業者に対し干害救済助成金の交付
- (7) 干害地に肥料購入補助金の交付
- (8) 低利資金の償還年限の繰り延べ
- (9) (10) (11) 各種補助金等(省略)

次に、昭和四二年の大干ばつの様子を『広報伊方町』の摘録で見てみよう。

本年度の大干ばつは、全く過去の気象資料を見ても類例がないほど大規模なもので、町の記録では明治三六年の大干ばつ

(九四日間)に次ぐものであり、実に六四年來のものといえるが、その内容と被害については、全く有史以來のものといえよう。

七月九日以来異常干天が続き、九月末現在で八四日間の降水量はわずかに三八・一ミリであり、八月の総降水量は五・六ミリで平年の三・七%であり、九月の総降水量一・二ミリは平年の六・七%の雨量で、全く「カラカラ」という表現の通りである。しかも、八月一二日から九月一二日までの三二日間は全く無降水で、しかも高温が続いた。八月中の一日平均気温は二九・一度であり、平年より二度の高温を持続したことが、激甚災害に拡大された要因であり、その惨状は全く目をおおいたくなる感がある。



昭和33年の千人踊(伊方八幡神社)は伊方地区民総出でにぎわった

(別表) 昭和42年の干ばつの被害状況

作物名	総面積	栽培面積	被害面積	平年収量	被害減収量	被害率	単当り	被害額
	ha	ha	ha	t	t	%	千円	千円
稲	28	18		92	19	20	128	2,432
甘藷	104	104		1,768	1,238	70	14	17,332
雑穀	17	17		34	24	67	70	1,680
トマ	11	11		248	179	72	49	8,771
ミカ	256	256		4,641	3,109	67	50	155,450
夏カ	137	137		3,000	1,860	62	40	74,400
雑カ	22	22		330	208	63	60	12,480
桑園	10	10		3	1.6	53	1,000	1,600
計								274,145
小カ	442	442						350,146
夏カ	200	200						101,242
雑カ	25	25						13,740
樹体被害								465,128
合計								739,273

しかしながら、農家は天災とあきらめず、枯渴した河川流水にめげず、水源を他町にまで求めて、自動車による水運搬に日夜をとわず、全く不眠不休の努力を傾注しているが、全く用水は底をつき、水不足は日一日と深刻になっている。このままの状態が続くと、一部地域では今後雨が降っても回復不能というところもあり、ミカン等の果実被害はもとより、樹体被害を合計すると、農作物の被害総額は実に六億九〇〇〇万円の巨額に達する。また、この応急対策事業の施設費のみで七〇〇〇万円の経費を要し、燃料費、自動車償却費等の累計は二〇〇〇万円以上となっており、全く干ばつ戦争といえる現況の昨今である。(以下略)

農作物の被害は全く他の気象災害(台風、豪雨、大雪、地震等)に類例がないほど大規模なものとなった。別表は町内被害額の九月三〇日現在の集計である。

近年はかんきつ栽培の発展により干ばつの際には機械かん水が盛んとなり、水不足対策として大型貯水槽や地下水利用のさく井が行われている。

しかし、干ばつが長く続くと水源が底をつき、河川や池からの水運搬の苦勞は大変なものである。南子用水工事の早期完成が待たれる(詳細は第四編第二章第六節南子農業水利事業と農業経営の項参照)。

第五節 豪雪・異常低温

降雪についての古い資料が乏しいので明確ではないが、南国といわれる当地でもたびたび大雪に見舞われ、特に近年は件数が多く晩かん類を中心とする農作物の被害は甚大なものがある。また、かんきつ類が導入されると冬季に麦作主体のころには農作物にさして被害のなかった異常低温が、果実、樹体に大きな被害を与えるようになってきた。

また豪雪、異常低温は、水道管破裂による断水、スリップによる交通事故の増大といった被害を与えている。

昭和五三年一月二十九日に降り始めた雪は翌三六年一月四日まで降り続き、まれにみる大雪であった。このために一月三二日から海陸の交通は全く途絶し、一月三日から一部開通、五日平常にもどるといふ雪の正月を迎えた。

また昭和三八年一月の豪雪と低温(俗に三八豪雪という)は夏かんなどに大打撃を与えた。本町の被害額(主として夏かん)は七〇〇〇万円にのぼり、天災融資法の適用を受けた。

第六節 地震・津波

地震は、その震度によって異なるが、愛媛県における地震・津波の記録は少なくない。しかし、伊方町では地震や津波の記録は乏しく、被害の記録も少ない。

第七節 資料

本編の執筆に当たっては、次のような点に留意した。

- (1) 台風、豪雨、干ばつ、大雪・異常低温、地震に分類して、台風、地震は寛永年間以降、他は安政年間以降について年代順に配列した。
- (2) 霜害・降雹・冬季大風などは、比較的災害軽微とみて省略した。
- (3) 資料は()書き以外は『宇和島藩記録』、『愛媛県史概説』などによった。

(詳細は前伊方町誌参照)

一 台風記録

年号	年月日	西曆	風速	最大風速	概要	要
寛永	九・八・六	一六三二			大風のため正眠院山門倒壊	
承応	一・七・四	一六五二			承応元年大風、農作物被害	
寛文	六・七・四	一六六六			前代未聞の大風被害	
延宝	二・八・一七	一六七四			家を破ること四二〇〇戸余、破船一七〇隻、死者五人、田畑の損害甚だ多し	
〃	四・七・八	一六七六			三、四日風雨、御荘田地流れる	
〃	六・七・八	一六七八			伊予の地一八日の大風雨にて堤防二五五間、塩浜二八六間、新田堤八六間破れ、民屋二九三戸倒る	
〃	六・八・五	一六七八			伊予の地この五日、六日の風雨にて堤防二七八間、屋舎二七七戸倒壊	
元禄	七・七・〇	一六七九			大風雨、御荘村々井手川際残らず被害	
〃	七・七・〇	一六八九			風雨洪水六一八戸破れ三人死す、損耗七七〇俵免租	
〃	五・七・七	一六九四			強風洪水損耗六一六町、壊家二四〇戸、破船六隻	
〃	七・二・二	一七〇〇			壊家六三二戸、破船一〇隻、損耗一万二〇〇〇石	
〃	八・二・二	一七〇〇			田畑一万四四三〇石損耗、家屋三六六戸崩壊、死者三人	
〃	八・二・二	一七〇〇			損耗米二万石、倒壊家二三〇〇戸、流死一七人	
享保	一・九・〇	一七二九			大風雨	
正徳	二・八・一	一七二二			風雨激し、損耗四万五〇〇〇石、吉田領特に甚だし	
宝永	四・八・一	一七〇七			大風雨損害おびただし、宇和島領内へ二〇〇〇両救助	

年号	年月日	西曆	風速	最大風速	概要	要
宝暦	一・二・六	一七六二			殊に城下は六〇年来の大風にて猪、鹿等も溺死す	
安永	三・九・二	一七七四			大風洪水（高松藩津波の記録あり）	
天明	二・八・二	一七八二			風雨洪水、損耗三万八〇〇〇石余、死者三人	
寛政	一・八・一	一七九六			大風高潮	
〃	八・二・九	一七八六			暴風雨、損耗五万二〇〇〇石	
享和	一・八・一	一八〇一			風雨増水、損耗二万七九五石	
文化	一・八・二	一八〇四			破家一七一二戸、死者一四人、死牛馬一八頭、損耗七万石	
弘化	三・七・九	一八四六			未曾有の風速にて惨たんを極む、世にこれを午年の大風という	
慶応	二・八・七	一八六六			風雨洪水	
明治	三・一〇・一	一八七〇			暴風雨被害多し、吉田藩内の落雷一五七か所、溺死八人	
〃	三・一〇・二	一八七〇			四国大風雨	
〃	七・八・一	一八七四			愛媛大風雨	
〃	七・八・一	一八七四			愛媛大風雨	
〃	七・八・一	一八七四			予讃両国に大風水害あり、惨状を極む	
〃	一・四・一	一八八〇			大波大風雨にて漁船破壊、いりこせいろ二〇〇枚流出（町見郷土誌）	
〃	一・五・一	一八八二			四国暴風洪水	
〃	一・六・一	一八八三			四国大風雨	
〃	一・六・一	一八八三			四国大風雨	
〃	一・七・一	一八八四			四国大風雨	
〃	一・八・一	一八八五			大波にして浜通路なし、居宅四戸倒れ流出、小編網一帖流失（町見郷土誌）	
〃	一・九・一	一八八六			暴風雨のため嘉喜尾小学校大破す	
〃	一・九・一	一八八六			大波、船多く破る	
〃	二・二・一	一八九〇				
〃	二・三・一	一八九〇				

第1編 自然

年号	年月日	西曆	氣圧	最大風速 m/秒	概要	要
明治	二四・九・一四	一八九一	七二〇		南予で風水害が大きかったと考えられるが、被害状況不詳	
"	二六・一〇・一四	一八九三	七二〇		宇和島総降水量一九二ミリの、四国地方の被害甚大	
"	二七・九・一一	一八九四	七三〇		松山最大風速一一・七ミリの、九町漁港大波止破壊	(町見郷土誌)
"	二八・八・二五	一八九五	七二〇		宇和島総降水量二〇ミリの南予に風水害あり	
"	二九・八・一八	一八九六	七二〇		松山最大風速一一・六ミリの八幡浜総降水量一五〇ミリの県下に被害多し	
"	三〇・九・二九	一八九七	七二〇		松山最大風速五二ミリの松山総降水量一五三ミリの 総降水量は南予で二〇〇ミリの、四国から四〇〇ミリの被害の詳細不明	
"	三一・八・二九	一八九八	七五〇以下		新居郡国領川堤防決壊、溺死者一〇〇余人等々	
"	三二・八・二八	一八九九	七二〇		松山最大風速一〇・七ミリの、県下全般に暴風雨に見舞われた	
"	三五・九・八	一九〇二	七三〇		宇和島降水量一〇五ミリの	
"	三八・八・一六	一九〇五	七四〇			
"	四〇・七・一八	一九〇七	七三〇		大暴風雨	(町見郷土誌)
"	四二・八・六	一九〇九	七四〇		大南風、大雨	(町見郷土誌)
"	四三・八・三〇	一九一〇	七四〇		新居浜最大風速二二・八ミリの海上は大しげでかなりの災害を受ける	(町見郷土誌)
"	四四・八・一五	一九一一	七二〇		大風、大雨、大波近年になし、家屋、人畜、作物に被害多し	(町見郷土誌)
大正	一・九・二二	一九二二	七二〇		芋苗大いたみ植え付け不能、麦・豆などみな風にとらる	(町見郷土誌)
"	三・六・二	一九二四	七二〇		八幡浜付近降水量二〇〇ミリの大風雨、居宅大いたみ	(町見郷土誌)
"	三・九・二二	一九二二	七二〇		大波、浜通り破壊す	(町見郷土誌)

年号	年月日	西曆	氣圧	最大風速 m/秒	概要	要
大正	七・七・二二	一九一八	七二〇		大波、浜の家まで潮うち上げ道路いたむ	(町見郷土誌)
"	九・八・一五	一九二〇	七四五		東予、南予で降雨多く、御荘では大山津波起こり多数の死傷者を出した	
"	一〇・七・二三	一九二二	七四〇		帆船の転覆、河川のはらん、家屋の倒壊など、かなりの被害あり	(町見郷土誌)
"	一三・九・二二	一九二四	七四五		瀬戸内海および沿岸では暴風となり死者、住居倒壊、船舶の沈没流出あり	
"	一四・九・一七	一九二五	七四〇		県下では一五日、一七日大雨あり、総降水量は一五〇ミリの、 〇〇ミリのくらいとなり、海上では風波高く、海陸とも災害を受ける	
昭和	三・八・二九	一九二八	七四〇	一九・八	防波堤の破損、崩壊、河川のはらんなど特に甚だし	
"	五・八・二三	一九三〇	六九二	四・七	二八、二九日暴風雨、発動船いたむ	(町見郷土誌)
"	六・一〇・二三	一九三一	七三〇	一〇・八	宇和島付近で降水量二〇〇ミリの、風力は陸上で一〇から一五 ミリの、海上では二〇で風水害を受ける	
"	七・八・二二	一九三二	七〇〇		海上の風力は一五ミリのを越し、風水害を受ける	
"	八・一〇・二〇	一九三三	七二〇	一八・六	南予および山岳地方に二〇〇ミリの内外の降雨あり	
"	九・九・二一	一九三四	六八〇	九・六	八幡浜から今治海岸部にかけて被害が出た	
"	一〇・六・三	一九三五	七四七	三二・七	観測された最低気圧の世界新記録、西日本に大被害	
"	一〇・八・二八	一九三五	七〇七	二一・五	西日本一帯では風雨を伴い被害を起こした	
"	一〇・九・二五	一九三五	七二六	二一・四	県下では暴風雨となり、災害を受けた	
"	一二・九・一一	一九三七	七二三	二一・九	二四日から二五日にかけて暴風雨となり、相当の被害を受けた	
"	一六・八・一五	一九四一	七二〇	九・三	一〇日夜半から一日にかけて暴風雨、大被害が出た	
"	一六・一〇・一一	一九四一	七二〇	二一・九	一四日夜から暴風雨となり、一六日まで続いた 海上は暴風となり、大被害を受けた	

昭和	年号	年月日	西曆	気圧	最大風速	概要
二四・七・一九五	二四	七・一九五	一九四九	九七〇	三〇・〇	伊方村、一七日風力四、一八日風力六、午前一時ごろから南西風強まり暴風雨となる (伊方観測所記録)
二五・七・一九五〇	二五	七・一九五〇	一九五〇	九七〇	三四・五	伊方村、二〇日に台風、一〇時三〇分から一三時までの間に通過す、二日は同台風の余波で風雨強し (伊方村日誌)
二五・九・一九五〇	二五	九・一九五〇	一九五〇	九四〇	四四・〇	伊方村、三日午前九時ごろから強風、風力六 (伊方観測所記録)
二六・七・一九五一	二六	七・一九五一	一九五一	三〇・二	三〇・二	一三日、九州北上、海陸ともに大災害を受けた (伊方村日誌)
二六・一〇・一九五一	二六	一〇・一九五一	一九五一	九二・五	六七・一	伊方村、台風情報 (暴風、豪雨、高潮) (伊方村日誌)
二七・六・一九五二	二七	六・一九五二	一九五二	九六〇	六七・一	伊方村、床下浸水七〇戸、家屋全壊六戸、半壊二〇戸、船舶全損四〇隻、半損五一隻、被害甚大 (伊方村日誌)
二八・九・一九五三	二八	九・一九五三	一九五三	九二〇	二九・五	町見村、二四日台風警報、二五日台風一三号により県道三か所崩壊す (町見村日誌)
二九・八・一九五四	二九	八・一九五四	一九五四	九四〇	三二・五	町見村、一八日暴風警報発令あり、二〇日床下浸水家屋一斉消毒
二九・九・一九五四	二九	九・一九五四	一九五四	九五〇	三七・三	町見村、七日台風一三号襲来、夜半強風のため被害相当あり
二九・九・一九五四	二九	九・一九五四	一九五四	九二〇	四二・四	町見村、二二日一八時三〇分暴風警報発令、一三日台風一二号暴風圏内に入りたるにより役場内に対策本部設置
二九・九・一九五四	二九	九・一九五四	一九五四	九六〇	二七・五	町見村、二五日台風一五号襲来、消防団警戒出動す、二六日被害甚大、重傷二人、軽傷二人
三〇・一〇・一九五五	三〇	一〇・一九五五	一九五五	九六八	四〇・四	近來まれにみる大災害で洞爺丸沈没 (以下伊方町の状況)
三一・九・一九五六	三一	九・一九五六	一九五六	九四〇	三九・五	暴風警報発令、台風二三号襲来により夜半から暴風雨となり、午前六時ごろ通過し、(以下略) 午後七時警報解除
						九日二時台風襲来、一〇日、前夜に引き続き暴風となり午後一応平穏となる、雨量少なく潮風のため農作物の被害甚大

昭和	年号	年月日	西曆	気圧	最大風速	概要
一七・八・二七	一七	八・二七	一九四二	七〇〇	一四・九	二七、二八日にかけて暴風雨となり、降水量多く大災害を受けた
一七・九・二二	一七	九・二二	一九四二	七一〇	一八日ごろから雨が強くなり、降水量多く、大水害を受けた	
一八・七・二一	一八	七・二一	一九四三	七四〇	二一日から大雨降り続き、河川決壊、山崩れ家屋流失、埋没田畑流失など大被害あり (伊方観測所記録)	
一八・九・二〇	一八	九・二〇	一九四三	七〇〇	一九・七	伊方村、総降水量四五ミリ、二〇日午前二時ごろから暴風雨となる (伊方観測所記録)
二〇・九・一八	二〇	九・一八	一九四五	九五五 mb	五〇・〇	(風速は以下佐田岬の記録) 家屋の全・半壊、船舶・宅地の流失、稲作その他農作物樹木の折倒、道路の破損など大なるものあり、室戸台風と優劣なし
二〇・一〇・一五	二〇	一〇・一五	一九四五	九五五	二三・〇	伊方村、三日八時ごろから一〇時まで大雨となり、水害を受く、役場建物本月一七日の風害により瓦なきたため事務中止する (伊方村日誌)
二〇・一〇・一七	二〇	一〇・一七	一九四五	九五五	三六・〇	伊方村、一〇日夜来北風強く大雨降り続く、午後やや弱くなるも依然止まず、川は増水甚だしく、込山方面の土手を越ゆ (伊方村日誌)
二一・七・二八	二一	七・二八	一九四六	九六〇	二四・〇	伊方村、甚だしき暴風波とならず、無事台風通過せり、潮はまれにみる高潮なりしも一・二戸浸水家屋あるもほとんど被害なし (伊方村日誌)
二三・一〇・六五	二三	一〇・六五	一九四八	九五〇	三八・五	伊方村、四日満潮時海岸一帯浸水、六日午前二時ごろから強風となる (伊方観測所記録)
二四・六・二〇	二四	六・二〇	一九四九	九五〇	三八・五	日振島漁船遭難四八隻、乗員三二八人、南子漁村は潰滅的な打撃を受けた、村内消防団員全員出動し、遭難者一二六人を救護す (伊方村日誌)

第1編 自然

年号	年月日	西曆	気圧	最大風速 m/秒	概要
昭和	四〇・	八・五	九八九	四二・五	五戸、半壊八戸、床下浸水四〇〇戸、田畑冠水三ヶ所、船舶被害一五隻
〃	四〇・	九・一〇	九七八	四二・五	漁港施設一か所、護岸災害二〇〇万円、建物半壊五戸、船舶被害六隻
〃	四〇・	九・一七	九八九	三二・七	道路破損四か所三一五万円、建物床下浸水二〇戸、水田冠水一ヶ所、船舶被害二〇隻
〃	四一・	九・九八	九九〇	二七・五	港湾一か所、突堤五〇万円、建物床上浸水二戸、田畑流失埋没〇・七ヶ所、田畑冠水一ヶ所
〃	四四・	八・二二	一九六九	三四・八	道路破損二か所七〇万円
〃	四五・	八・二〇	一九七〇	二五・一	道路破損五か所六三〇万円
〃	四六・	八・三	一九七一	一四・〇	港湾災害三か所二八〇万円
〃	四六・	八・二八	一九七一	五〇・〇	道路破損一か所四〇万円、橋梁破損一か所四〇万円
〃	四七・	七・二三	一九七二	一六・七	道路破損一か所四〇万円、橋梁破損一か所四〇万円
〃	四九・	九・一	一九七四	四一・七	漁港防波堤破損九五〇万円
〃	五〇・	八・一七	一九七五	三一・三	道路破損三か所七五〇万円
〃	五一・	九・一八	一九七六	二五・二	道路破損二か所五五〇万円
〃	五四・	九・四	一九七九	一八・五	床下浸水三〇棟、道路二か所、港湾二か所被害、船舶被害三〇隻、山地崩壊五・一九ヶ所、漁港三か所、海岸二か所等被害総額四億二二一九五〇〇〇円
〃	五四・	九・三〇	一九七九	一一・七	
〃	五五・	九・一一	一九八〇	二〇・七	

年号	年月日	西曆	気圧	最大風速 m/秒	概要
昭和	三一・	九・二五	九七五	二八・三	土佐沖北東進
〃	三二・	九・二七	九八五	二五・二	六日一八時四分暴風雨高潮警報発令(台風一四号)、七日一三時一四分警報解除、風あまり強くなく、豪雨による被害大
〃	三三・	九・一七	二五・〇	二六・七	護岸・堤防二か所、防波堤二か所被害、床下浸水二五戸、田畑冠水一五ヶ所、田畑流失〇・二ヶ所、漁船の被害中破二隻、小破一〇隻
〃	三四・	九・一六	三三・三	三三・七	漁港施設災害護岸一か所六〇万円、漁船の被害中破五隻、大破一〇隻
〃	三四・	九・二六	三一・七	三一・七	港湾施設二か所五二万円、家屋半壊三戸、床上浸水五戸、床下浸水五〇戸、水田冠水一〇ヶ所
〃	三五・	八・二八	二二・五	二二・五	漁港施設護岸二か所二五〇万円、港湾施設護岸三か所六二万円、道路二か所五〇万円、床下浸水一五戸、田畑冠水二ヶ所、漁船二隻小破
〃	三六・	九・一四	四三・〇	四三・〇	港湾施設護岸突堤三か所、漁港施設護岸四か所、防波堤二か所、一〇七〇万円、非住家全壊二〇棟、床上浸水一〇戸、床下浸水二〇〇戸、水田冠水三ヶ所、船舶被害一三隻
〃	三七・	八・二二	二八・五	二九・二	道路決壊一〇か所五〇万円、漁港防波堤護岸三か所二三五万円、水田冠水一五ヶ所
〃	三八・	八・一〇	一七・三	一七・三	漁港施設一か所、護岸及び防波堤災害一六〇万円
〃	三九・	八・二四	一四・八	一四・八	漁港施設五か所、防波堤、物揚場等災害一三二〇万円、建物全壊
〃	三九・	九・二四	九六六	九六六	

二 豪雨記録

年号	年月日	西曆	気圧	最大風速 ^{m/秒}	概	要
昭和	五七・八・二六	一九八二	九七五	一三・二	畑埋没四・八八ヘクタール、文教施設三か所、漁港五か所その他被害総額三〇一五万九〇〇〇円	
"	五七・九・二四	一九八二	九七七	一〇・五	漁港防波堤、護岸破損一四〇〇万円、道路破損三か所四一三万五〇〇〇円	
"	五八・九・二五	一九八三	九八九	一八・二	道路破損一か所七〇万円	

年号	年月日	西曆	降水量mm	概	要
安政	四・旧七・二九 (九・一七)	一八五七		洪水で加茂川決壊、死者一六人、稲作被害多し	
万延	一・旧四・二五 (五・二五)	一八六〇		霖雨不作、正月から四月五日までほとんど降雨続き不作	
慶応	二・旧七・一〇 (八・一〇)	一八六六		洪水	
明治	九	一八七六		大水害(町見郷土誌)	
"	一三・七・一	一八八〇		豪雨	
"	一八・六・七	一八八五		豪雨、七月一日から四日に至る間低気圧瀬戸内海に停滞し、一日から連続降雨、三日県下は豪雨となった、米凶作、米価値上がり	
"	二三・七・一	一八九〇		五〇〇六〇ミリの降雨、低地浸水す	
"	三三・四・一	一九〇〇	中予	四日から西日本降雨、八日に至るまで連続降雨あり、水害を受く	
"	三三・七・七	一九〇〇	中予	特に一五日は前線上に強雷雨発生、降雨も激しかった、水害を受く	
"	三三・七・二五	一九〇〇	中予		

年号	年月日	西曆	降水量mm	概	要
明治	三四・六・三〇	一九〇一	二七五	県下全般に総降水量は二〇〇ミリのから三〇〇ミリの間に達し水害を受く	
"	三四・七・一四	一九〇一		特に一四日、一五日連続大雨で県下に水害を与えた	
"	三五・七・二〇	一九〇二		八幡浜地方は大水害を受く、総降水量中予で一五〇〜二〇〇ミリの間に達し水害を被る	
"	三五・九・二八	一九〇二		県下全般に総降水量は二〇〇ミリの以上となり水害を被る	
"	四一・八・一〇	一九〇八		短時間に一〇〇ミリの前後の強雨となり、水害を受く	
"	四三・八・一〇	一九一〇		八月八日から五日間大雨	(町見郷土誌)
大正	四・六・二五	一九一五		肱川流域で二〇〇ミリの以上の降水があつたが、被害の詳細不明	
"	七・二・二〇	一九一八		七月二〇日から二四日まで大雨大風、土用に入りてより大雨ばかり、九月大風引大流行、死者多し	(町見郷土誌)
"	八・七・四	一九一九		南予で一〇〇ミリの前後となり水害を受ける	
"	九・六・七	一九二〇		八幡浜、宇和島方面に集中被害があつた	
"	一〇・六・一四	一九二二		六月一日から七月一日までに五日間天気ありしのみ、アワまきかえ多し、タカキビ腐る	(町見郷土誌)
"	一〇・八・九	一九二〇		総降水量は南予および山岳部で二〇〇ミリのを越し被害があつた	
"	一一・七・一七	一九二二		総降水量は三〇〇ミリのから四〇〇ミリの間に達し大きな水害を受けた	
"	一二・七・二一	一九二三		梅雨前線は低気圧に刺激されて活発となり、県下に豪雨を降らす	
"	一五・七・一	一九二六		梅雨前線活動により三日から六日にかけて降雨続き、特に三日は南予に一〇〇ミリのを越し豪雨あり	
昭和	二・八・二六	一九二七		二六日夜から二七日朝にかけて県下全体に雷雨性の豪雨あり	
"	三・六・二五	一九二八		大洲、八幡浜周辺では総降水量四〇〇ミリのを越し被害発生す	
"	七・七・二一	一九三三		東予および南予で一〇〇ミリのから二〇〇ミリのの豪雨となり水害を受けた	
"	八・七・二一	一九三三		この雨は松山周辺に多く一五〇ミリの間に達した	

昭和	年月日	西曆	降水量mm	概要
三五・六・二二	三三	一九六〇	一八八	西日本に連続大雨を降らせ、本県でもかなり水害を受けた
三六・六・九八	三三	一九六一		本県は三日から五日にわたり豪雨が降り、災害を受けた
三七・六・〇七	三三	一九六二		三一日から一日にかけて豪雨となる、被害甚大であった
三七・六・二四	三三	一九六二		総降水量は松山付近と八幡浜付近で一八〇mmとなり、水害を受けた
三七・六・二四	三三	一九六二		記録的暴風雨となり、連続の降雨で諸川はんらんし大災害を受け惨状を極めた、当地方でも麦が立ったまま芽をふく(腐る)被害が出た
三七・七・一八	三三	一九六二	二五〇	総降水量は南予で三〇〇mm(中略)となり、水害を受けた
三八・四・二八	三三	一九六三		強雨が続き県下全般に大水害を受けた
三九・六・二四	三三	一九六四	一九三	一四日、昨夜来の豪雨による被害倒壊家屋住宅三戸、非住家二戸(町見村日誌)
四〇・六・二〇	三三	一九七五	一九七	西日本各地でかなり豪雨があり、本県も相当の被害を受けた
四一・九・九六	三三	一九七二	六五	本県で総降水量二〇〇mm前後の豪雨となり、大水害を受けた
四二・六・二二	三三	一九七二	一九七	一〇日、昨夜来の降雨のため二見小島平早返五〇mmに決壊す (町見村日誌)
四三・六・二二	三三	一九七二		総降雨量は南予で最高五〇〇mmに達した所もあり、大被害を受けた
四四・九・二七	三三	一九七二		二六日、夜間奥、向集落で浸水甚だし、消防団七〇人出動 (町見村日誌)
四五・六・二二	三三	一九七二		比較的短時間に県下各地で一〇〇mmから一五〇mmに達する豪雨があり、かなり被害を受けた
四五・五・二二	三三	一九八〇		六月三〇日から七月一日にかけての豪雨でかなり被害があった
				前線の活動が活発となり、一〇〇mm前後の降雨があり水害が出た
				主な被害地は四国・九州
				県下最大日雨量、一五日宇和島四四・四mm
				県下全域で被害を受けた
				県下の主な被害地は東予・南予
				県下の主な被害地は南宇和郡・西宇和郡
				県下全域に大きな被害がでた
				道路決壊三か所六一万円、床下浸水五戸、水田冠水一戸 (町資料)
				麦は明治以来の不作、かんきつ・野菜にも大被害、農林水産関係損害見積額三七億円、土木関係損害見積額一七〇〇万円(異常天候降水日数四九・六六日)農作物被害一億一〇〇〇万円、天災融資法の適用を受けた被害農家低利融資一〇〇〇万円 (町資料)
				町道決壊五か所一三五万円、床下浸水五〇戸 (町資料)
				大雨、宇和島二〇二mm、大洲付近で被害
				大雨、弱い熱帯低気圧と秋雨前線の影響、宇和島一八九mm
				大雨、梅雨前線の影響、宇和島一四三・五mm、市内でがけ崩れ
				道路破損一九か所四七九〇万円 (町資料)
				豪雨、梅雨前線の影響、宇和島三八一・五mm、西日本各地で被害、道路破損二七か所九二六〇万円、建物床上浸水一戸、床下浸水一七戸、田冠水四戸 (町資料)
				豪雨、宇和島一三・五mm、山地崩壊〇・二mm、農林水産業施設被害その他被害総額四五〇万円 (町資料)

昭和	年月日	西曆	降水量mm	概要
一〇・六・二六	三〇	一九三五	三〇〇	西日本に連続大雨を降らせ、本県でもかなり水害を受けた
一一・七・三	三五	一九三八	七〇	本県は三日から五日にわたり豪雨が降り、災害を受けた
一二・七・三一	三五	一九三八	二六三	三一日から一日にかけて豪雨となる、被害甚大であった
一三・七・三一	三五	一九三八	二六三	総降水量は松山付近と八幡浜付近で一八〇mmとなり、水害を受けた
一四・六・一四	三三	一九四二	一六二	記録的暴風雨となり、連続の降雨で諸川はんらんし大災害を受け惨状を極めた、当地方でも麦が立ったまま芽をふく(腐る)被害が出た
一五・七・二二	三三	一九四三		総降水量は南予で三〇〇mm(中略)となり、水害を受けた
一六・七・二二	三三	一九四三	二九七	強雨が続き県下全般に大水害を受けた
一七・八・二六	三三	一九四八	一九六	一四日、昨夜来の豪雨による被害倒壊家屋住宅三戸、非住家二戸(町見村日誌)
一八・七・二二	三三	一九五一		西日本各地でかなり豪雨があり、本県も相当の被害を受けた
一九・七・二二	三三	一九五二	五三	本県で総降水量二〇〇mm前後の豪雨となり、大水害を受けた
二〇・七・二二	三三	一九五二	一〇七	一〇日、昨夜来の降雨のため二見小島平早返五〇mmに決壊す (町見村日誌)
二一・七・二二	三三	一九五二		総降雨量は南予で最高五〇〇mmに達した所もあり、大被害を受けた
二二・七・二二	三三	一九五七		二六日、夜間奥、向集落で浸水甚だし、消防団七〇人出動 (町見村日誌)
二三・七・二二	三三	一九五七		比較的短時間に県下各地で一〇〇mmから一五〇mmに達する豪雨があり、かなり被害を受けた
二四・七・二二	三三	一九五八		六月三〇日から七月一日にかけての豪雨でかなり被害があった
二五・七・二二	三三	一九五九		前線の活動が活発となり、一〇〇mm前後の降雨があり水害が出た
二六・七・二二	三三	一九五九		主な被害地は四国・九州
二七・七・二二	三三	一九五九		県下最大日雨量、一五日宇和島四四・四mm
二八・七・二二	三三	一九五九		県下全域で被害を受けた
二九・七・二二	三三	一九五九		県下の主な被害地は東予・南予
三〇・七・二二	三三	一九五九		県下の主な被害地は南宇和郡・西宇和郡
三一・七・二二	三三	一九五九		県下全域に大きな被害がでた
三二・七・二二	三三	一九五九		道路決壊三か所六一万円、床下浸水五戸、水田冠水一戸 (町資料)
三三・七・二二	三三	一九五九		麦は明治以来の不作、かんきつ・野菜にも大被害、農林水産関係損害見積額三七億円、土木関係損害見積額一七〇〇万円(異常天候降水日数四九・六六日)農作物被害一億一〇〇〇万円、天災融資法の適用を受けた被害農家低利融資一〇〇〇万円 (町資料)
三四・七・二二	三三	一九五九		町道決壊五か所一三五万円、床下浸水五〇戸 (町資料)
三五・七・二二	三三	一九五九		大雨、宇和島二〇二mm、大洲付近で被害
三六・七・二二	三三	一九五九		大雨、弱い熱帯低気圧と秋雨前線の影響、宇和島一八九mm
三七・七・二二	三三	一九五九		大雨、梅雨前線の影響、宇和島一四三・五mm、市内でがけ崩れ
三八・七・二二	三三	一九五九		道路破損一九か所四七九〇万円 (町資料)
三九・七・二二	三三	一九五九		豪雨、梅雨前線の影響、宇和島三八一・五mm、西日本各地で被害、道路破損二七か所九二六〇万円、建物床上浸水一戸、床下浸水一七戸、田冠水四戸 (町資料)
四〇・七・二二	三三	一九五九		豪雨、宇和島一三・五mm、山地崩壊〇・二mm、農林水産業施設被害その他被害総額四五〇万円 (町資料)

三 千ばつ記録

年号	年月日	西曆	降水量mm	概	要
昭和	五七・七・二五	一九八二	六二〇	長雨大雨、宇和島一時間最大雨量四五・五ミリ、九州大被害、道路二〇か所、農道七か所、農地一か所被害、崖崩れ二か所その他被害総額五七五五万円	(町資料)
昭和	五九・六・七八	一九八四	九〇	大雨、宇和島一時間最大雨量五五・五ミリ(六月の第一位)	(町資料)

年号	年月日	西曆	概	要
慶応	三・一	一八六五	千ばつにして水論各地に起こる	
明治	八・三	一八六七	大干ばつ稲作不振	
明治	一六・八	一八七五	六、七月千ばつ	
明治	二六・二	一八八三	大干ばつで赤痢流行す	
明治	二六・六・二五	一八八三	大干ばつで赤痢流行す	
明治	二七・七・二六	一八九三	大干ばつで松山では四一日間に二〇ミリであった	
明治	二七・八・三一	一八九三	大干ばつで松山では四一日間に二〇ミリであった	
明治	二七・七・二六	一八九四	大干ばつで稲作および農作物などに甚大な被害があった、松山三七日間降水量一六ミリ	(町見郷土誌)
明治	三〇・〇・八	一八九七	二八日間の降水量は南予の沿岸地方で二四ミリ以下、県下水不足に悩まされる	
明治	三六・九・六	一九〇三	三六年三月から五月まで雨、それより九月まで九四日間大干ばつ	(町見郷土誌)
大正	一・一・八	一九一四	千ばつで暑い晴天が続ぎ、降水量は二〇ミリと僅少、農作物被害多し	
大正	一・三・七	一九一四	五月二三日から大干ばつ、米価大に上がる	(町見郷土誌)

年号	年月日	西曆	概	要
大正	一四・一五・八	一九二五	大干ばつ、五〇日ぶりに雨をみる	(町見郷土誌)
昭和	四・七・一九〇	一九二六	千ばつで南予・東予では水不足をきたし、農作物特に甘藷、そ菜類の畑作不作となる	
昭和	九・七・二七	一九二九	(松山八月降水量四一ミリ)	
昭和	九・七・二七	一九三三	千ばつから稲作その他全般にわたって水不足に悩まされ、甘藷は不作であった	
昭和	一四・八・七	一九三九	平地部では雨量少なく千ばつとなる、八幡浜降水量六ミリ	(伊方村役場記事)
昭和	二七・八・三二	一九四二	千ばつは中予・東予で特に著しく、農作物に多大の干害がでた	
昭和	二七・八・三二	一九四七	九月一七日、干害調査のため郡支部食糧検から来村	(伊方村日記)
昭和	二七・八・三二	一九五一	南予沿岸部では無降水二七日を記録し、水不足に悩まされ、甘藷その他の畑作に相当の干害を受けた	
昭和	二七・八・三二	一九五二	全般に雨量少なく、畑作に干害を受けた、日照りに苦しむ八幡浜山間部では真夜中に水汲みをした	
昭和	二七・八・三二	一九五三	濁水で飲料水が不足した所もあり、畑作および夏かんに干害がでた	
昭和	二八・七・二七	一九五八	七月一日〜八月二日までの総降水量七・三ミリ、干害対策補助事業八二万円、被害面積五九六・五ヘクタール、被害金額五五八二万五〇〇〇円、被害農家戸数二一三四戸	(町資料)
昭和	二八・七・二七	一九五八	千ばつ(梅雨異常、雨量僅少)で六月二四日現在の甘藷植え付け遅延面積は二八九・五ヘクタール(全面積の八五パーセント程度)大雨ごいを行った	(町資料)
昭和	三三・七・二七	一九五八	七月六日〜八月一日までの総降水量三・八ミリ、植え付け後の作物も枯死寸前の状態、果樹も落葉し、果実の生育は停止した、飲料水も三日に一回の時間給水がでる	(町資料)
昭和	三三・七・二七	一九五八	被害面積七一三・三ヘクタール、被害金額四七八三万三〇〇〇円、干害応急対策国費事業四一	(町資料)
昭和	三三・七・二七	一九五八	一万三〇〇〇円	(町資料)
昭和	三三・七・二七	一九五八	七月一日〜九月一三日までの総降水量二七ミリ、干害応急対策国費事業三一八万六〇〇	(町資料)
昭和	三三・七・二七	一九五八	〇円、同県費事業一〇〇万五〇〇〇円	(町資料)

年号	年月日	西 暦	概	要
昭和	三七・一〇八・三〇〇	一九六二	八月一日～一〇月三日までの総降雨量三〇〇〇円、同県費事業一〇三万二〇〇〇円、野菜などに干害がでて秋まき野菜の種まき期おくれる 大干ばつ、七月二〇日～九月二日までの総降雨量五・二ミリ、伊方八幡神社および町八幡神社で大雨ごいを行う 干ばつで果樹の落果、葉巻き、枝枯れが多かった	(町資料)
"	四二・七・二〇〇	一九六七	八月四日～九月二日までの総降雨量一・八ミリ、八月三日伊方町干ばつ対策本部設置、九月三日大雨ごい、干害対策応急事業四〇四三万六〇〇〇円、西条火力発電所から船で給水	(町資料)
"	五二・七・二〇〇	一九七七	六月四日～七月一日までの総降雨量一六・一ミリ、七月三日から梅雨干害対策本部設置、七月一日喜木川取水開始、七月一日伊方大川取水開始	(町資料)
"	五三・八・二〇〇	一九七八	七月一日～八月二七日無降雨状態、八月二三日干害対策本部設置、取水八か所、一日一五五八ト、樹体被害面積七九八ヘクタール(栽培面積の九三セシ)、減収量二九七ト(七セシ)、被害金額一億一九五三万円	(町資料)
"	五七・七・一〇四	一九八二		
"	五八・七・一八	一九八三		

四 豪雪・異常低温記録

年号	年月日	西 暦	概	要
明治	一六・五	一八八三	五月、愛媛全県に雪電	
"	四〇・二・二	一九〇七	大雪、県下積雪状況は松山三四センチ、宇和島一五センチ、宇和二四センチ	(町見郷土誌)
大正	二・二・一〇	一九一三	一〇、一日大雪、積むこと八寸(二四センチ)	(町見郷土誌)

年号	年月日	西 暦	概	要
大正	六・一・四三	一九一七	三、四日大風大雪、積むこと七寸(二一センチ)	(町見郷土誌)
"	六・二・四	一九一七	大雪、一月七日から雪降りやまず、二月一日に至る	(町見郷土誌)
"	二・二・二七	一九二三	二六、二七日の両日大雪、八寸(二四センチ)以上積もる	(町見郷土誌)
昭和	二・一・二五	一九二七	大雪	(町見郷土誌)
"	二・二・九七	一九二七	一〇〇年ぶりの大雪	(町見郷土誌)
"	三・二・二	一九二八	大雪	(町見郷土誌)
"	二〇・一・一七	一九四五	大雪、積雪五寸(一五センチ)	(町見郷土誌)
"	二・二・二六	一九四八	雪、一月二六、二八、二九日降雪	(伊方村日誌)
"	三・一・九	一九五六	大雪、バス不通のため町見吏員は支所勤務	(町日誌)
"	三・一・九	一九五七	最大風速宇和島一四、佐田岬一九・五	
"	三・一・二一	一九五八	強風と積雪、南予のバス路線寸断さる、積雪二〇センチ	
"	三・一・二一	一九五八	強風と大雪、最大風速二三日佐田岬二八・九、宇和島一五・七、バス路線寸断	
"	三・一・二一	一九五九	強風と大雪、一七日積雪二五センチ、交通機関途絶、一八日積雪三五センチ、交通機関途絶、一九日雪解け始める、船舶のみ交通開始、バス路線不通	(町日誌)
"	三・一・二一	一九六〇	強風と大雪、予讃線列車は三〇日ごろから一部乱れる、南予のバス三〇日ごろから混乱、一月三日から一部復旧、五日から平常に戻る、西宇和郡の夏かん被害大、最深積雪伊方五二センチ	
"	三・一・二一	一九六一	積雪、一日大雪解けず、二日県道の雪ブルドーザーにて除雪する、三日雪解け始める、四日積雪のため夏かんの枝折れ被害甚大	(町日誌)
"	三・一・二一	一九六三	豪雪・低温、全国的な豪雪で三八豪雪といわれる、夏かんなど被害額七〇〇万円、天災融資法の適用を受けた	(町記録)
"	三・一・二一	一九六七	大雪、伊方中観測所最深積雪二五センチ、最低気温三〇日マイナス二・〇	(町記録)
"	三・一・二一	一九六八		

年号	年月日	西曆	概	要
昭和	四六・一・五	一九七一	大雪、宇和島地方山間部一〇〇一五センチ、積雪で国道五六号線一時不通	
"	五二・二・一九	一九七七	大雪・低温、伊方中観測所最深積雪一八センチ、最低気温一五日マイナス6.1℃	
"	五二・二・一七	一九七七	異常低温、伊方中観測所最低気温一六日マイナス1.1℃、一七日マイナス5.4℃	
"	五二・二・一七	一九七七	大雪、八幡浜観測所最深積雪二八センチ、農作物(果樹の樹体)に被害、三十日雪害対策本部設置、被害総額七〇〇万円	
"	五五・二・三〇	一九八〇	大雪、八幡浜観測所最深積雪二二センチ	
"	五六・二・二三	一九八一	異常低温、伊方中観測所最低気温二六日マイナス8℃	
"	五六・二・二三	一九八一	異常低温、伊方中観測所最低気温二六日マイナス8℃	
"	五八・二・二六	一九八三		
"	五九・二・二七	一九八四		

五 地震・津波記録

年号	年月日	西曆	概	要
寛永	二・三・一八	一六二五	地震にてふさがる(以下温泉については道後温泉のことである)(中略)後、旧のごとく湧出す	
"	七・一一・五	一六三〇	地なりふいて泉脈閉塞す	
慶安	二・二・五	一六四九	伊予・安芸両国地大いに震い、宇和島・松山二城石壁崩れる(以下略)	
貞享	二・二・四	一六八五	大地震道後湯没す、御城郭のうち数か所崩る	
"	三・二・一〇	一六八六	地震に泥湯湧出後、清湯となる	
元禄	一・五・二三	一六八八	強震三回あり	
"	七・五・二五	一六九四	閏五月二五日伊予国大地震火事	
宝永	四・一〇・四	一七〇七	本月四日大地震につき御城内所々破損、委託田五〇三町二反一畝歩、家屋その他数々流失、死人八人、半死二四人	

年号	年月日	西曆	概	要
享保	一・九・二二	一七一六	朝強震あり	
寛延	二・四・一〇	一七四九	四ツ時、地大いに震う、宇和島城楼破損、その他被害多し	
明和	六・七・二八	一七六九	八ツ時半、強震あり	
文化	九・三・一〇	一八一二	三月一〇日から一五日まで地大いに震う、損害多し	
安政	一・一一・七五	一八五四	一月四日江戸大地震、同五日松山大地震(中略)道後村温泉絶つ(翌年二月末から温泉旧のごとく湧出す)	
"	四・八・二五	一九五七	強震やまざること七昼夜、地元民、競々として居に安んぜず、家を閉ざして竹林に避難せり	
明治	三・八・六	一九〇五	震度五であり、主なる被害地は松山、温泉、越智、伊予の各郡	
"	四・〇・八	一九〇七	震度四、震央地豊予海峡、西宇和郡強震被害あり	
昭和	一・一・一九	一九四一	M(マグニチュード)七・〇、震源日向沖、小津波あり	
"	一・一・一九	一九四一	M二・八・三、震源東南海沖、津波六センチ、死者九九八人、流失家屋三〇五九戸	
"	一・一・一九	一九四一	M二・八・一、震度四、震源南海道沖(南海道地震)、死者二七人、傷者二八人、全壊家屋一三三三戸、県下海岸線は地盤沈下のため平均四〇〇〜五〇センチ沈下、道後温泉湧出止まること半年に及ぶ	
"	二・二・二二	一九四六	津波(チリ沖地震)、津波警報が発令され警戒体制に入ったが、当町には被害なし	(町日誌)
"	三・五・二四	一九六〇	M二・七・〇、震源日向灘	
"	三・六・二七	一九六一	M二・四・八、震度三、震源愛媛県西部	
"	四・三・一一	一九六八	M二・七・五、震度四、震源日向灘(日向灘地震)弱い津波あり	
"	四・三・一一	一九六八	M二・六・六、震度四、震源宇和島湾、地鳴りあり、津波なし、愛媛・高知・大分・宮崎に被害あり	
"	四・四・二一	一九六九	M二・六・五、震度三、震源日向灘	
"	四・四・二一	一九六九	M二・六・七、震度三、震源日向灘	
"	四・五・二六	一九七〇	M二・六・四、震度三、震源大分県中部	
"	五・〇・二二	一九七五	M二・六・一、震度三、震源瀬戸内西部	
"	五・四・二二	一九七九	M二・七・〇、震度四、震源大分県北部	
"	五・八・二六	一九八三	M二・七・二、震度四、震源日向灘	
"	五・九・二七	一九八四		